

# グループホーム 倫尚園

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		月2階は、地域の方がボランティアでカラオケ教室を開催してくださっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		重度化していく中で、地域の方々に対して「偏見」をなくせるよう、もっと積極的に出向いていけるようにし、地域との距離を縮めていきたい。

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人内の他事業所と協力し、介護保険制度や緊急時の対応と認知症について等、講義会のプログラムを作成し、講演活動を地域に対しての取組として行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を事業所内で協力して実施することにより、ケアのあり方や初心にかえるための機会として振り返りを行い、グループホームの意義やケア改善について話し合うようになっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームに於けるサービス内容を報告して助言等をいただくよう投げかけている。地域との関わりについての意見や提案を取り入れられるように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員派遣事業や認知症介護実践リーダー研修、地域密着型サービス事業開設者研修での実習の受け入れ等市との連携を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内や外部での研修にできるだけ参加して学ぶ機会を持つようになっている。		現在、該当される方はいないが、いつでも制度の利用ができるよう情報収集等の準備を行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部のグループホームの方々との合同勉強会等でスタッフの自己学習や発表を通じて意識を持つようにし、いつでも確認ができるよう書面も準備している。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には書面に沿って十分に説明をするようにし、質疑をしている。苦情に関する申し立てもフローチャートに沿って説明をし同意をいただいている。</p>		<p>解約時には、住み替えの場が決まるまで、ご家族と一緒に話し合うよう支援している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関するフローチャートを玄関に設置している。また月1回のオンブズパーソン派遣や介護サービス相談員の訪問日をポスターに示して、外部者にも意見を表せるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には入居者方の生活状況を説明し、お小遣い帳により出納状況も確認していただくようにしている。職員の異動に関して報告はしていない。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関するフローチャートを玄関に設置している。また、介護サービス相談員の訪問日をポスターに示している。面会時には必ず会話をする機会を作り意見がうかがえるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関しては法人と職場と距離が開いており、意見の反映はできていないのが現実である。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活状況に合わせて6パターンのローテーションを組み、パート職員の活動等柔軟に対応できるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に関しては、法人が決定するものでなかなか理解がないのが現実である。代わる場合は、馴染みのスタッフとペアを取り組んで慣れるまでは一緒に行動をし、サポートができるよう配慮している。</p>		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>募集・採用においては、法人の事務局が全て行っており、管理者は把握できない。勤務については現場スタッフの意向を取り入れながら働きやすいように変更等柔軟に対応するようになっている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>法人内研修等でも人権については教育をしている。現場でも事例を通じて声掛けや関わり方について人権とは何か話合うように心掛けている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で様々な研修を実施している。また、可能であれば外部の研修も受講するようになっている。外部のグループホームの方々と合同勉強会や自己学習の機会をつくるようになっている</p>		<p>もっと外部での研修が受講できるよう勤務調整や人員の確保を行いたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部のグループホームの方々と合同勉強会を企画して、ネットワークづくりや意見交換をして質の向上と事業所内での抱え込みの解消に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフの状況を見て対応時の交代や休暇が取りやすくなるように勤務表の調整や変更をするようになっている。</p>		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの実績を評価する指標がなく、フィードバックできていないのが現実であるが管理者としてできるだけスタッフと会話をする時間をつくるよう努め想いを知るようにしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時より、独自のシートに沿って話を聴くようにしている。また、入居後は早期に馴染みが気付けるよう集中して個別に係わるよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居申し込みの際に現状の聞き取りを時間をかけて行うようにし、面接時には、ご家族の意向も聴くようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、住み替えが必要な時期なのかを病気の説明を踏まえながら御家族と話すようにしている。必要時には、居宅支援事業所や他グループホームの見学等も進めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染み作りを目的として、日中・夜間・宿泊と3タイプの体験入居を実施し、ご家族の協力も得ながら、環境変化へのダメージを最小限にするよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一人の生活者」として入居者方を捉え、共に生活する事の意味をスタッフと考えるように心掛けている。「させる」ことに満足して「学ぶ」ことへの意識が弱い面もある。		グループホームのあり方とその人らしさということについてもっとスタッフと話す機会を作りたいと思っている。

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の想いや心理に配慮しながら情報の提供をしながら、入居者方のご家族への想いも伝えるようにしている。また、進行する状態に対し一緒に考えていくよう心がけている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族の想いが本人に負担にならないければ今まで通りの距離を大切にし、適度な距離が必要と考えられる時には、ご家族にも状況の説明をして一緒に考えるようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やお墓参り、カラオケスナック、ご家族へ訪問、家に居たであったなら送られたであろうと思う事を可能な限り希望に添えるよう御家族とも協議して支援するよう努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の座席や馴染み同士での入浴の誘い合い等、入居者同士の関係性や関わりには十分配慮して、適度な距離感も大切にしながらきっかけ作りを支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には御家族とも一緒に住み替えの場を協議し見学したり転居後も面会に行く等、関係の継続に努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントする際には、御本人・御家族に意向を確認するようにし、生活歴チャート等活用して「その人らしさ」を追求している。認知症の人の代弁者として客観的視点も大切にスタッフ本位にならない様に注意している。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴チャートや日常の会話の中、御家族からの情報収集等今までの暮らしの把握と継続に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフと御本人の過ごし方については協議するようにしている。また、ICFの視点等情報提供をスタッフに行い、手を出し過ぎず、入居者方と一緒に取り組むよう努めている。		待つことや一緒にすることの大切さをスタッフと共有することも大切であるが、待てずにイライラしてしまうスタッフへのケアも大切に考え取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに於いて、御本人、御家族はもとより身近なスタッフの視点も大切にしながら情報の収集を行い、医療ニーズの高い方には医療関係者の意見を聴き、ケア手順書等の確認を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ささいな状態変化に対して、ケア内容は変更しているが、介護計画にはタイムリーに反映されていないのが現実である。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は細かく状況が示されていると思える。また、カードックスを利用して介護計画を参照しながら記録でき、スタッフも情報の共有がしやすくなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人、御家族の要望に可能な限り対応できるよう外出・受信・個別行事等の付き添いも行うように努めている。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の時のボランティア依頼や、小学校・幼稚園、ボランティア団体の慰問。また売店や理美容の訪問もある。日帰り旅行等地域資源との関わりも大切に考えている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	過去、在宅復帰された方には居宅のケアマネジャーと協力をして在宅でのサービス利用の支援を行った。法人内のデイサービスや介護保険外のヘルパーの活用も検討したことはある。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外では地域包括支援センターとの関わりがないのが現状である。運営推進会議後の時間を使って積極的な情報交換には努めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には必ずかかりつけ医の希望を確認するようにしている。必要時には御家族と相談をしてかかりつけ医の変更にも同意を得ている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関である精神科の先生とは外来日以外でも随時相談に応じてくださる等の関係作りはできている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設内に看護職員が勤務しており、相談できるようになっている。往診してくださる病院とは24時間連絡可能でいつでも相談できるようになっている。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院された場合には、頻回に面会を行い、訪問して御家族及び病院関係者との情報交換をし、早期退職ができるように努めている。また個人のケア情報を提供して一貫したケアの継続ができるよう努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期における医療との連携は不十分な面が多く、現在在宅医療を活用してその体制を整えている。グループホームでの生活継続には努めているが、終末期の方針はなく、対応は困難な状態である。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期での対応は困難であるが、重度化への対応はグループホームでの生活が可能限り継続できるよう医療とも連携を図り支援に取り組んでいる。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>病院の退院前には御家族・病院関係者と協議してグループホームへの外出、外泊、を繰り返し、ダメージを最小限にするよう努めているまた施設に住み替える場合も御家族と一緒に見学行き、住み替えの場を決めてもらおうと努めている。</p>		<p>住み替えの時には御家族にどのような環境で生活を希望されているのかを聞いて施設等の情報提供をして一緒に見学に行き、雰囲気等を考慮して決めていただくようにしている。</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや人権を損ねるようなスタッフ目線での声掛け、対応をしない様に心がけている。個人情報の取り扱いにおいても実習生にも誓約書の取り交わしをし、その保護に努めている。</p>		

グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活でできるだけ簡単な選択、決定、実現ができる場面をつくるよう心がけている。言葉を短く区切ったりゼスチャーを取り入れたり能力に応じた対応をするようにし、無理じいをしないケアの支援を心がけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールをつくらず御本人で生活を定める事が出来る支援に努めている。「買い物に行きたい」「外に出たい」「夜風呂に入りたい」等希望にそっての支援が実現するよう努めている。		グループホームとそこで提供されるサービスのあり方についてもっと理解が深まりスタッフのストレス緩和につながるようスタッフのケアを実施していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択も自分でできるような支援を心がけている。スタッフの価値でのおしゃれではなく、その人らしさを大切にしておしゃれを支援するようにしている。理美容は望む店に行くことも可能となっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関してはできるだけ役割の提供に努め成功や達成の体験ができるようにしている。押しつけにならないよう声掛けや動機づけにも工夫をして参加できるよう努めている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒も晩酌や眠前等日常的に楽しめるようにしている。飲み物やおやつも代替品を準備したり、好みを選べるような場面を提供するように努めている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成して、目安となるパターンの配慮に努めている。しぐさ誘導も行うが排泄時の声掛けには傷つけないように配慮するようにしている。		「失敗させない」を意識しすぎるとスタッフはそれだけにこだわってしまうので、「失敗後のケア」も大切に考えるよう指導していきたい。排泄だけではなくその人を全体的に捉えてできる能力を引き出して活かせるケアの指導にも取り組みたい。

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の時間は決まっておらず希望する時間に入浴できるようにしているが、自発的に入浴を希望される方がほとんどいないため午後の入浴が多くなっている。入居者同士で誘い合えるよう支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間入浴や足浴、日中の活動、脳の覚醒状態等を考えて安眠の確保に努めている。また、寝場所もその人の状況に応じて居室や座敷に布団を準備できるようにもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お墓参り、面会、外出、カラオケスナック、炊事への参加、床漬け作り、編み物、書道等御本人の希望を聴きながら楽しみのある生活の実現に努めている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持してもらっているが、もの盗られ妄想の要因となる場合もあり、実現している方は少ない。買い物時には自分で支払いおつりをもらうという事を支援するには心がけている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、ドライブ、外食等を取り入れるようにし、屋内ばかりの生活で入居者方のストレスがたまらないように努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年日帰旅行を実施している。重度化している事もあり、個別にお墓参りや外出等希望される場所に行けるように努めている。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	複合施設の2階に公衆電話もあり外線電話も取り次いだり、可能な限り外部との交信ができるようにしている。届いた手紙の取次はしているが、自ら手紙を書く事は少ない。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方々がゆっくりと過ごせるように居室、座敷等の場の提供や飲み物の準備をするようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識を高めるために勉強会や研修を実施している。また日常生活場面でも事例を通じて話し合うように努めている。言葉による拘束には特に注意している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のカギはかける事はない。庭にも自由に出入りができるよう開放している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自分の意思で動く事が出来る方を言葉で呼びとめる行為は拘束と考えている。自由な行動をさりげなく見守り、時には付き添い、必要な方にはチェック表を作成して意識するように努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を伴う物品の保管場所は取り決めをしているが、包丁や洗剤等取り扱う場合はスタッフと一緒に行うようにして能力に応じて使える様にしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成して、予防や対応ができるよう努めているが、スタッフの知識や技術がまだ不足している。スタッフもその事に不安を感じている		研修等もっと学習する機会の確保に努めたい。

グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応や連絡に関してはマニュアル化しているが、定期的な訓練はできていない。年1回の救急訓練はしているがそれだけでは不足している。		在宅医療(往診)との連携により身近に指導を受けられるような体制作りをしていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設全体として、定期的に避難訓練を実施している。地域や消防署の協力を得て訓練を実施したこともある。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族には起こりうるリスクについては十分に話し、その事に対するケアの方向性についても説明をしている。契約書にも示しているが「その人らしい暮らし」を大切に、リスクは必ずあることの説明とその同意を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態に変化があるときには、複合施設の看護師やかかりつけ医にすぐ相談をして対応するように努めている。またその状況を記録にも残し情報の共有にも努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして全スタッフが見れるようにしている。特に注意を必要とする物は注意事項を記してとじている。精神薬も医師と相談の上、飲みやすい形態での提供に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼らず、運動や腹部のマッサージ・水分補給、牛乳、野菜ジュース、きなこ、芋の摂取等、便秘の軽減を図るよう努めている。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	できることは御本人にしてもらいながら口腔ケアを実施している。訪問歯科の先生より指導を受けたり、口腔アセスメントの実施も予定している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食べやすい形態での食事の提供や代替品の準備等により摂取量を確保し、水分量も記録につけたり好みのもを提供して、自分の意思で飲食できるようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体として、専門職を中心にマニュアルが作成されている。感染予防の委員会もあり、活動を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理は複合施設の厨房で行っているため食材の管理はしていない。食器や調理器具は栄養士の指導のもと栄養管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花や写真を飾ったり亀や魚を飼育したり、少しでも訪問しやすいように工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間には「暮らし」が感じられるものとなるよう配慮している。テレビやスタッフの声、足音等にも日常的にスタッフと話したり、一見雑然としているように見えるが必要なものが手の届く場所に置いてあったりと工夫している。		

## グループホーム 倫尚園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、座敷、居室、談話コーナー、庭への出入り口、庭の東屋等、気分や雰囲気状態に応じて誘ったり、自分の意思で行ったりして心地よく暮らせるよう努めている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇等持ち込みに関する制限はなく、出来るだけ馴染みのあるものを持ち込んでいただくようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排煙や窓、ドアの開放を随時行うようにしている。風邪の予防が必要な時には時間を決めて換気をしている。特に冷房が効き過ぎないように注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ浴室には手すりが設置されている。居室内でも安全バーやポータブルトイレ、センサーマット等できるだけ安全に御本人の動きを制限しないよう努め、自分でできるような環境づくりに努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには「便所」と書いて目印をつけたりしている。食事の提供方法も小鉢に分けたり一品ずつおいたり、食器とのコントラストをつけたりおにぎりにしたりとできるだけ自分の力でできるよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	非常口の外にベンチを置いたり、庭の東屋に座って話をしたり、バーベキューや焼き芋、日光浴、夕涼み等にも活用するように努めている。		

グループホーム 倫尚園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム 倫尚園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 入居者方の重度化に対してできることを見極めて引き出せるように、個別な介護手順書を詳細に作成して統一したケアの実施と「その人らしさ」の存続に努めている。
- ・ 活動プログラムは多様に準備しており、個別もしくは、小グループでの活動の実績と実践と重度化の予防に努めている。
- ・ 6パターンと多様なローテーションを組み、入居者方にニーズに柔軟に対応できるよう実践している。
- ・ 外部のグループホームさんと合同勉強会を開催して、意見・情報交換等ケアの質の向上に努めている。
- ・ 「認知症について」と題して、地域の老人会さん等を対象に講演活動を行い、認知症の理解について呼びかけている。